

審議第1号 コミュニティバスの再編について

＜協議事項＞

コミュニティバスの再編にあたっては、市内の公共交通ネットワーク全体の最適化を図るため、民間の路線バスも含めた見直しを検討する。（令和5年度のコミュニティバスは、現状の運行内容を継続する。）

1 コミュニティバス再編についての経過と課題

- ・ 前回の会議では、コミュニティバスの再編における7つの検討事項※について協議し、承認を頂いた。
その後、具体的なルート等を検討したが、コミュニティバスだけですべて検討事項に対応するとすると、ルートやダイヤが現状よりも複雑化し、利用者にとっては、かえって解りにくいものになってしまう可能性が高い。（特に、小学校への通学対応と工業団地への通勤対応は、平日毎日の運行が必要であるとともに、朝の時間帯が重複してしまうため調整が難しい。）
- ・ 市内を運行する民間の路線バスについては、コミュニティバスと同様に、長年に渡り運行ルート等の大きな見直しは行われていない。また、コミュニティバスは「民間の路線バスを補完するもの」として運行してきたこともあり、民間の路線バスも含めた全体的なバス路線網の見直しについても、これまで具体的な検討はされていない。そのため、路線の重複による解りにくさがあったり、バス停関係の統一が図れていない等、バス路線網全体としての課題もある。
- ・ 今後、市内の公共交通ネットワークの最適化を図っていくためには、まちづくり（都市計画）の観点も踏まえ、民間の路線バスも含めた再編についても検討する必要がある。

※コミュニティバスの再編における検討事項

- 1) 運行ルート・ダイヤの効率化・最適化
- 2) 神大実地区への運行
- 3) 通学バスとしての対応
- 4) 交通結節点の再配置
- 5) 国庫補助路線としての適応
- 6) 工業団地へのアクセス向上
- 7) 観光施設へのアクセス向上（観光周遊ルートの検討）

2 今後の方向性

市内の公共交通ネットワーク全体の最適化及び利便性の向上を目指し、コミュニティバスだけでなく、民間の路線バスも含めた再編を検討する。

検討の流れ

- ① 公共交通ネットワークの拠点となるエリア・施設を設定（→ 居住誘導区域、工業団地等）
- ② 各拠点の移動需要等から各路線バスの役割を整理
- ③ 役割に基づき、まずは各拠点を結ぶバス路線網の軸を形成
（※各拠点の利便性を向上させるため、バス路線網の軸は、広域に運行する民間路線バスで形成することを想定）
- ④ その軸をベースとし、コミュニティバスの運行ルート等を検討

懸念事項

- ・ 民間バス事業者の協力が必要不可欠であるが、各路線の経営も厳しい状況にあるなか、実現が難しいことも考えられる。（運行距離や運行本数が増える場合、運行経費の負担や運転手不足等の問題がある。ダイヤを変更する場合、他の市町にも影響がある。）
- ・ 関東鉄道が運行する守谷駅行きの路線バス及び茨城急行自動車が運行する野田市駅行きの路線バスについては、国や県の補助対象路線（地域幹線系統）となっており、関係機関との調整が必要となる。
- ・ 民間バス事業者や関係機関との調整、路線の編成等に相応の期間を要するため、令和5年度中に新規路線で運行開始することは難しい。

3 工業団地へのアンケート調査の結果について（移動需要の整理）

公共交通ネットワークにおける拠点の一つとなる工業団地の移動需要を把握するため、立地する各企業へ路線バス等に関するアンケート調査を実施した。

アンケート依頼先

- ・ 「つくばハイテクパークいわい」（計16社）
- ・ 「坂東インター工業団地・沓掛工業団地」（計21社）

アンケート結果

【別紙1】のとおり

- ・ つくばハイテクパークいわいは、守谷駅へ運行するバスの需要が比較的多く、利用者也一定数見込める。
- ・ 坂東インター工業団地・沓掛工業団地は、東武野田線（川間駅、愛宕駅）へ運行するバスの需要が比較的多く、利用者也一定数見込める。
- ・ 両工業団地とも、コミュニティバスの需要は、上記バスよりも少ない。

4 各路線バスの役割分担及び再編の素案

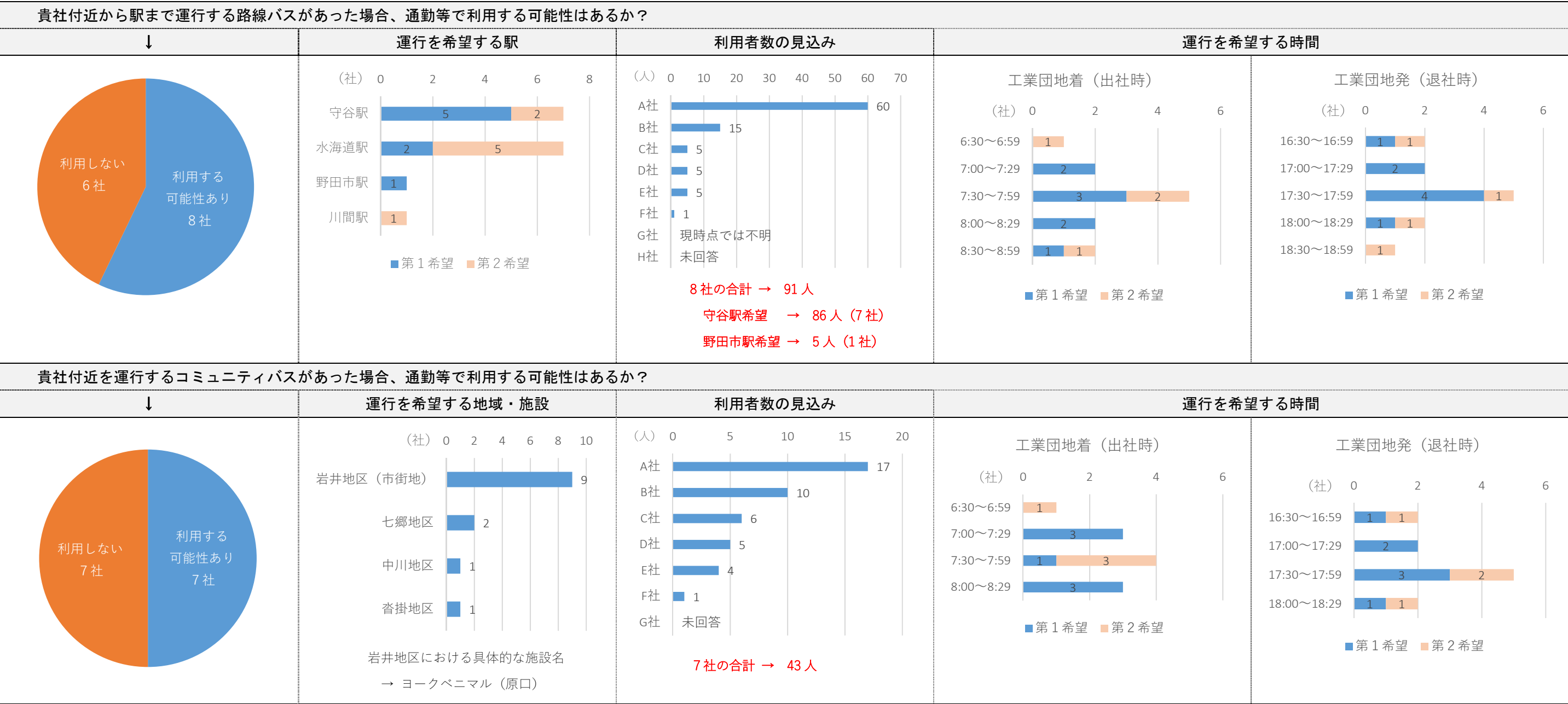
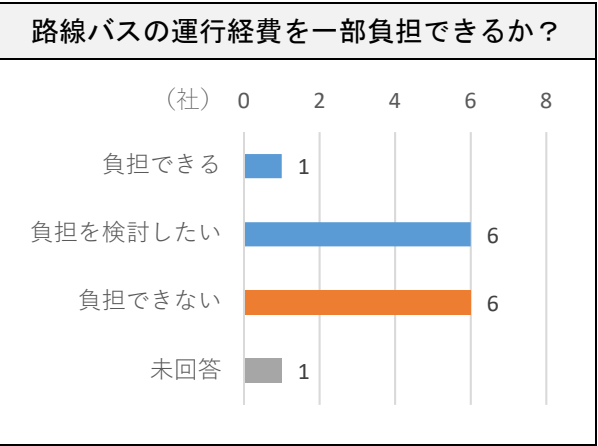
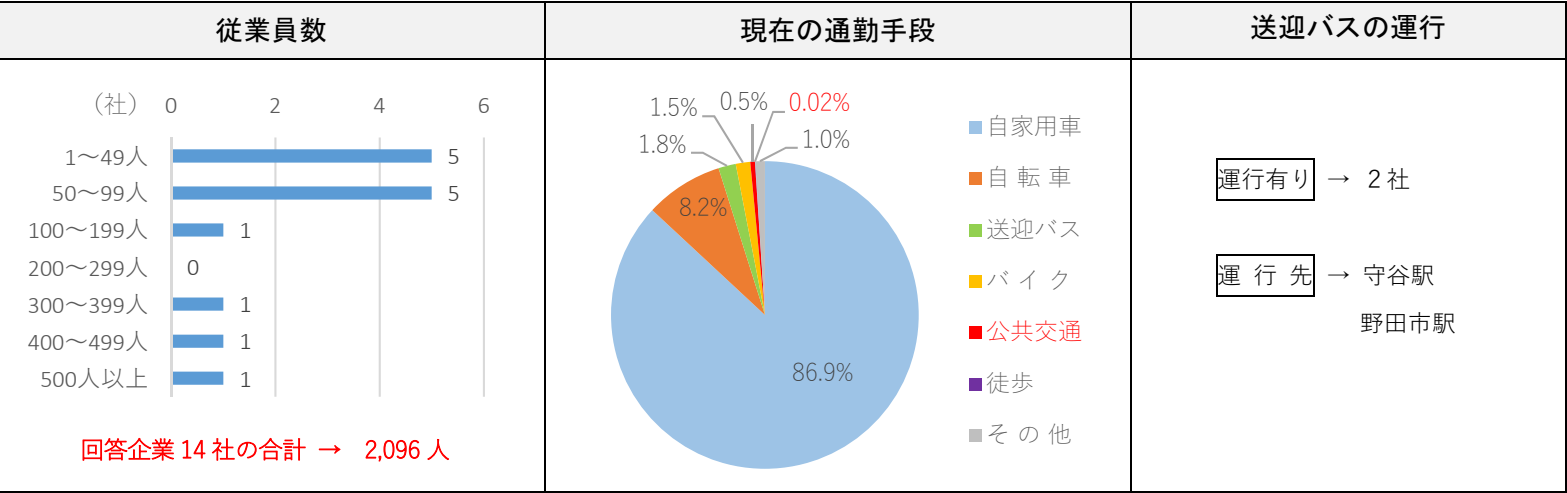
(1) 各路線バスの役割分担（案）

路線バス名	再編における新たな役割（拠点関係）
民間路線バス	坂東インター工業団地・沓掛工業団地の通勤・来訪需要への対応 つくばハイテクパークいわいの通勤・来訪需要への対応 岩井市街地・沓掛市街地の交通利便性向上
コミュニティバス	自然博物館を基点とした観光周遊ルートへの対応等

(2) 再編における民間路線バスの軸について

【別紙2】のとおり

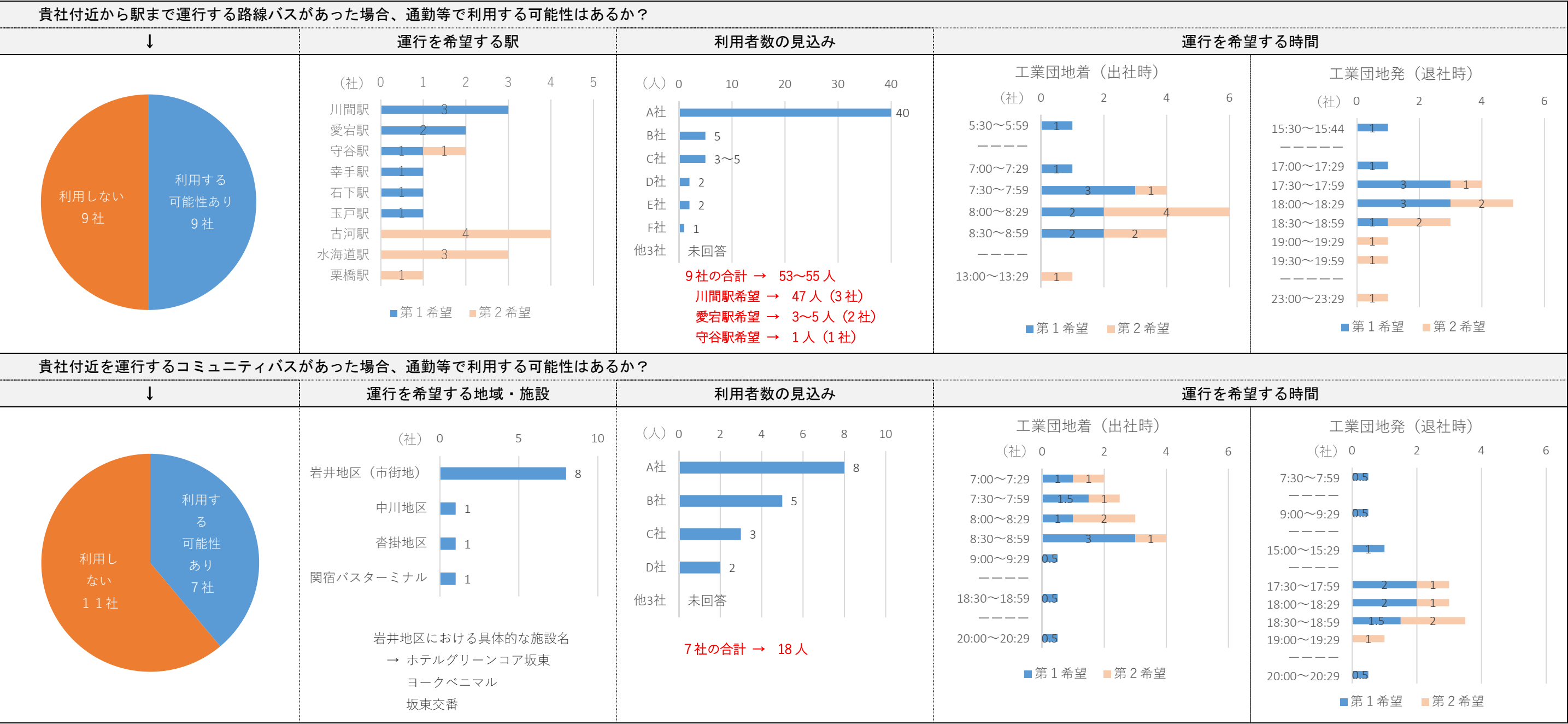
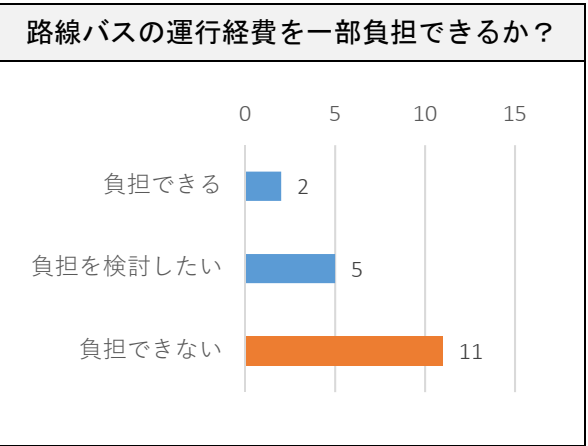
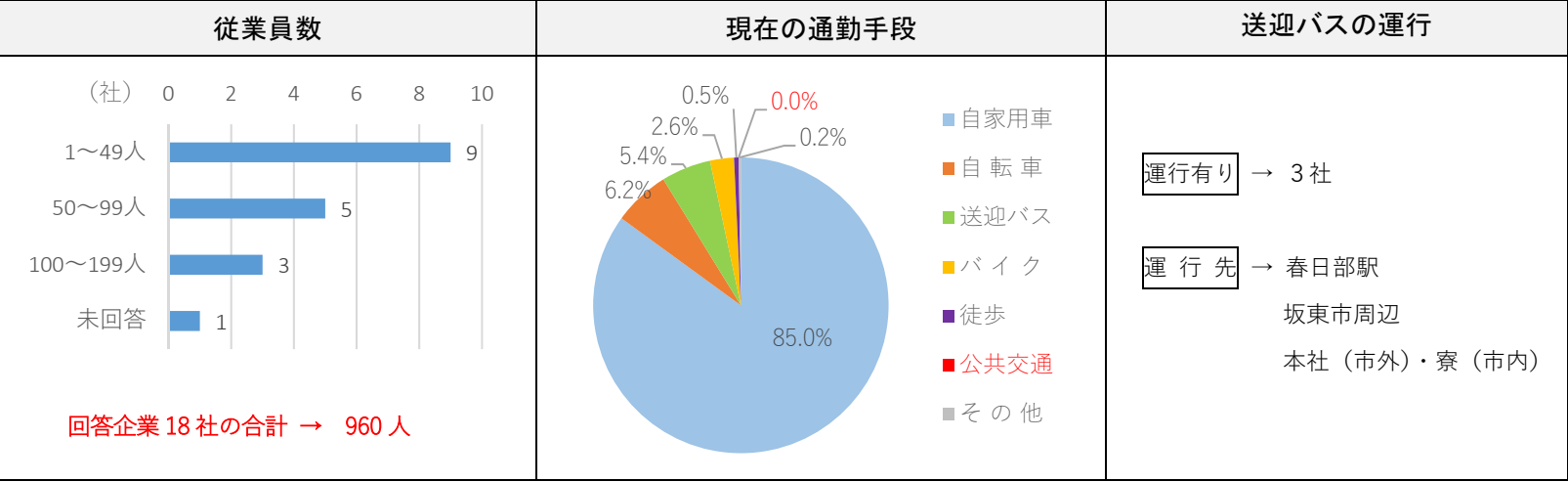
▼ つくばハイテクパークいわい （回答企業数： 14 / 16）



坂東市の公共交通に関する意見・要望等

- 鉄道駅からバスが運行になると、人材確保へのメリットが非常に大きいと思われます。
- 最寄り駅路線バスのバス停が徒歩圏内に無い為、現在岩井市街地内まで運行している路線バスが、ハイテクパーク内迄延伸していただけるだけでも需要はあると考えます。(通勤使いでなくても物理的移動が車両でないとできない地域である為)
- 今まで（バス、電車等）がないのが当たり前になっていた為、路線バスなどがあれば人の動きはあるとは思いますが、時間が早朝から深夜近くまでとバスの本数がないと利用人数は少ないと思います。守谷駅もしくは水海道駅はからの路線バスがあればありがたいです。利用人数は現状では未定ですが、今後の従業員集客に生かします。又、岩井市街（原口付近）に転勤者（単身者）が集中しており、ハイテクパークへの通勤に自転車を使っています。雨降りの日は危なく、できればバス通勤させたいと考えております。
- 当社は 24 時間操業を行っているため、夜間での出退勤もございますので、夜間帯の運行もご検討頂けると幸いです。
- あると便利な反面、使用も限定的で経費を考えるとやはり実用的ではない。

▼ 坂東インター工業団地・沓掛工業団地 （回答企業数：18／21）



坂東市の公共交通に関する意見・要望等

- 従業員のほとんどがマイカー通勤ではございますが、一部公共交通機関を必要とするものがおります。坂東工場へ出張する社員の往来もあるため、是非ともご検討のほどお願い申し上げます。
- 坂東インター工業団地内には 1 ヲ所しかバス停がなく、平日のみの運行しかなく、かつ運行本数も非常に少ないので、日々の足としての利用には向いていない。バス停の追加設置・運行本数の増加を希望したい。
- 大雪等による通勤困難時を除き、現在のところ、従業員の通勤に公共交通の必要は感じておりません。
- 本来は、取り組むべきだと考えますが、弊社の通勤時間帯にバスの運行を行うことが難しいかと思えます。
- 工業団地周辺の雇用促進には、コミュニティバスや路線バスが充実していることが必要だと感じています。工業団地に企業を誘致する時点で公共交通による雇用促進、通勤サポートの構想が無かったのは後手に回っているように感じます。地域住民の採用、特に高卒の採用に関して、免許取得が条件になる、当面は送迎が必要など、通う側のご家庭の不便さもあるように思います。
- 【人材不足】地元のみの雇用では人材不足を補えない

【外部人材の活用】外部から人材を連れてくることが絶対

【居住エリアとの距離】工業団地と居住可能なエリアが離れすぎている

【交通弱者】交通弱者（外国人、障害者、高齢者）が通勤できない

【多様性】人材の活用の多様性が求められているため、多様な出勤退勤時間がある

再編における民間路線バスの軸の検討（案）

民間路線バスの現ルート

茨城急行

関東鉄道（急行・博物館）

関東鉄道（直行）

昭和観光（境ルート）

昭和観光（岩井ルート）

拠点となるエリア・施設等



凡 例

(仮称) 山地区工業団地 予定地

坂東インター工業団地

沓掛工業団地

沓掛市街地 (居住誘導区域)

(仮称) 坂東パーキングエリア
坂東市地域利便施設 予定地

既存産業拠点(上出島)

つくばハイテクパークいわい

岩井市街地 (居住誘導区域)

茨城県自然博物館

凡 例	
区 域 区 分	
	行政区域
地 域 地 区	
	第一種低層住居専用地域 80/40
	第一種中高層住居専用地域 200/60
	第一種住居地域 200/60
	第二種住居地域 200/60
	近隣商業地域 200/80
	商業地域 400/80
	準工業地域 200/60
	工業地域 200/60
	工業専用地域 200/60
形 態 規 制	
	準防火地域
	生産緑地地区
都 市 施 設	
	自動車専用道路
	都市計画道路
	都市公園
	流域下水道・公共下水道 及び都市下水路
	公共下水道排水区域
	処理施設・ポンプ施設
	上記以外の都市施設
そ の 他	

